

寺社を巡る会

活動記録書

開催日： 平成28年7月7日（木） 晴れ	開催テーマ： ～北鎌倉の名刹を訪ねて～
開催場所： 山ノ内地区①	記入者： 金久保 常二
参加人数：寺社を巡る会会員 男 29名 女 7名 計 36名	
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）： コース：円覚寺～円覚寺塔頭寿徳庵（本尊特別拝観）～東慶寺（松岡宝蔵含む）～東慶寺鐘楼横（解散） <u>（半日コース）</u> 最初は北鎌倉駅前の円覚寺を訪ねる。総門前で資料配布、境内に入り挨拶の後、NPO法人鎌倉ガイド協会の案内で班ごとに出発する。総門には山号「瑞鹿山」の額を掲げ、山門には寺号の「円覚興聖禅寺」の扁額を掲げて、楼上には、十一面観音像と十六羅漢を祀る。瑞鹿山円覚興聖禅寺は、鎌倉五山の第2位、臨済宗円覚寺派の大本山である。開基は北条時宗、開山は宋の名僧無学祖元、本尊は宝冠釈迦如来である。 弘安5年（1282）執権北条時宗が蒙古襲来（文永・弘安の役）で戦死した味方ばかりでなく敵方の霊をも慰めるため、宋から招いた無学祖元を開山として建立したという。 当寺には伝説が多いという。寺名や寺地は時宗と蘭溪道隆により選ばれたが、工事を始めると地中から石櫃が出てき、中に円覚経が納めてあったので、それに因み円覚寺にしたという。また山号については、祖元が開堂供養の説法をしていると、一群れの白鹿が人びとに混じって聴聞したところから、瑞鹿山と名づけたという。現在の仏殿は昭和39年（1964）鉄筋コンクリート造りで建てられ、本尊の宝冠釈迦如来と持仏像の梵天、帝釈天が安座されている。天井には、日本画家前田青邨監修、守屋多々志揮毫の白龍図が描かれている。 円覚寺はかつて塔頭が41存在したが現在では18院という。今回はそのうちの一箇所「円覚寺塔頭寿徳庵」を特別拝観した。仏殿のわき道を通って左手の山道を登ると円覚寺66世中円の塔所「寿徳庵」である。本尊の聖観世音菩薩、中円の木造座像が祀られている本堂内を拝観した。墓地には中興開基の三浦道寸と一族の墓がある。道寸は戦国初期の武将で、北条早雲に滅ぼされた。円覚寺門前の石段を下り白鷺の池を左右に見て次の目的地に向かうが、バスの通る県道も横須賀線も実は円覚寺の境内を貫いている。 次に東慶寺。松岡山東慶総持禅寺で臨済宗円覚寺派である。北条時宗の妻が出家して覚山尼となり、夫の菩提を弔うために、円覚寺に遅れること3年、つまり弘安8年（1285）に建立した尼寺である。この寺は、寺内に駆け込めば女性の側からも離縁できるという、縁切寺だった事で知られている。明治になって縁切寺法は廃止され、住職も男性の僧に代わった。 山門をくぐると、すぐ左方に鐘楼がある。これは材木座の補陀洛寺にあった鐘で、東慶寺の鐘は伊豆菰山の本立寺に移されたといわれている。本殿はこの寺が誇る梅や萩、竹林などに包まれて季節を彩っている。茎の先端に青紫色の花を開く夏の桔梗も「花の寺」にふさわしく美しく咲いていた。梅林の奥に以前あった仏殿は明治40年（1907）、横浜の三溪園に移築されて今日に及んでいる。本尊の釈迦如来像、覚山尼、用堂尼、天秀尼の安置されている本堂に上がりお参りする事ができた。聖観音立像の仏像のほか、縁切寺だった当時の様子をうかがわせる証文や離縁状などの展示品を松岡宝蔵で拝観した。	
参加者の状況・意見など： 初めての試みとして半日コース設定で実施した。今日のような暑日には成功した良い例となった。細かなところでは若干の不満もあるやに聞いている。改善点を出し合いより良き「寺社を巡る会」にしていきたい。	
次回の予定： 8月4日（木） 13：00 座学 場所：富岡並木地区センター	